

平成29年2月17日

吉田町議会議長 大塚邦子 様

産業建設常任委員会委員長 増田剛士

産業建設常任委員会調査報告書

本委員会で決定した所管事務調査について、調査の結果を別紙のとおり吉田町議会会議規則第73条の規定により報告します。

- 1 調査事項 観光資源の開発について
- 2 調査の目的 富士山静岡空港を始めとする交通インフラが整備される中、当町において、幹線道路が整備されて交流人口の増加が期待されている。
しかし、当町は、観光資源が乏しいとされ観光目的での交流人口は少ない。
当局は、シーガーデンシティ構想を立ち上げ観光資源の開発に着手している。
近年は、大型バス等での観光地巡りよりも個人の趣味によるプチ旅行が流行している。
そこで、当町の隠れた観光資源を掘り起こし、交流人口の増大を図るよう調査研究を行う。
- 3 期 間 調査・研究が終了するまで。
- 4 調査の経過 審議及び協議等記録用紙参照
- 5 調査の結果 別紙のとおり
及び意見

5 調査の結果及び意見

産業建設常任委員会では、平成27年6月所管事務調査「観光資源の開発について」と題し調査研究を行うことを決定。

町内の隠れた観光資源を掘り起こし、交流人口の増大を図ることを目的に、町内の様々な観光資源となりうるものを調査することにより、「まちの賑わいづくり」の一助になればと考え調査研究を行った。

- (1) 「よくばりマップ」を参考に町の観光資源を認識すると共に、展望台小山城を中心に実際に歩き町内外の方にPRできるものか検証を行った。

ア 検証結果

- (ア) 「よくばりマップ」に記載されている場所への道案内表示がな
くわかりにくい。
- (イ) 見学地での説明ガイド（観光ガイド）が必要。
- (ウ) 徒歩で散策する際の道路整備が必要。特に歩道、横断歩道。
- (エ) 休憩場所がない。
- (オ) 民間所有のため見学の協力体制の構築が必要。

上記の課題が挙げられ、これらの改善が観光資源としてPRするには不可欠であると結果を出した。

イ 隠れた観光資源の開発として、町内にどのようなものがあるか協議を行い以下が挙げられた。

- (ア) よしだ町花の会による花壇を巡る「四季の花巡り」コース、マ
ップの作製。
- (イ) よしだ田んぼを利用した「田んぼアート」の実現。
- (ウ) 神社仏閣、地蔵尊等の散策コース、マップの作製。
- (エ) 町内企業の工場見学。
- (オ) 町内のお祭り（神社の祭典）、奴、山車の引き回し等。
- (カ) サイクリングコースの策定。

詳細な調査項目として、町内には多数の地蔵尊、神社仏閣があることに注目し、隠れた観光資源の開発として、「ふるさと民間信仰」に記載されている地蔵尊等を「御利益スポット」と名付け調査研究を行った。

ウ 町内を4地区に分け御利益スポットになりうるものを検証した。

(ア) 検証結果

- a 各地区に昔からの伝承にまつわる話と共に地蔵尊や如来像があり御利益スポットとしての価値が見受けられる。
- b 伝承を伝える「語り部」の育成が必要。
- c 駐車場がない。
- d 個人所有のため所有者の協力体制の構築が必要。

上記の結果が挙げられた。

(2) 平成28年10月11日(火)～12日(水)

「既存の観光資源開発の中で見つけた資源の生かし方と新たな観光資源開発による交流人口増大を図る施策を視察する。」を目的とし香川県宇多津町議会、高松市議会にて行った。

視察報告書は既に提出済であるが、総評を記載する。

- ア 宇多津町、高松市の視察において、観光による交流人口増大を図る施策がはっきりと示されていた。
- イ 宇多津町の臨海公園に関する事業は、当町における「シーガーデンシティ構想」に参考となるものであった。新たな観光資源開発に寄与できるよう調査研究を進めたい。
- ウ 高松市のレンタサイクルによる既存の観光地巡りは、当町において自転車レーン等の道路事情等、課題が多いと考えるが年中温暖で平地が多い地形は高松市と似ているため実現に向けた前向きな調査研究が必要である。
- エ 観光資源の開発は、行政、住民が一体となって協議推進していく必要があり、賑わいづくりによる交流人口増大が、町に何をもたらすのか示すことの重要性を視察により学んだ。

(3) 所管事務調査の仕上げとして、これまでの調査研究結果について以下を産業課に提出し、産業課の見解を頂いた。

ア 観光事業への課題

- (ア) 町内の観光スポット所在地への誘導看板、案内看板の不備。
- (イ) 町の観光イベントに関し、「まちづくり公社」と「観光協会」との連携、関わりが不透明。
- (ウ) 富士山静岡空港からのアクセス(公共交通)の不備。

イ 観光資源の開発に関する要望・提案

- (ア) 「よくばりマップ」の内容の充実。当委員会で取り上げた「御

利益スポット」等の掲載。

- (イ) 町全体のマップと別に4自治会地域のマップ及びパンフレットの作成。
- (ウ) パークアンドサイクルの実現。(観光サイクルコースの設定)
- (エ) 町内企業の工場見学を観光資源として取り入れる。
- (オ) 観光情報のPR、情報発信の強化。
- (カ) 吉田漁港東側に建設中の多目的広場に関し、多目的ではなく目的を持った施設の整備。

例：交流人口増大を図る施設、町民の憩いの場の設置、海を生かした施設等

(4) 産業課の主な見解

ア (3)アの課題について

- (ア) 前向きな検討と試験的な実施を今後行っていく。特に誘導看板、案内看板は、詳細な調査検討のうえ試験的に実施する。
- (イ) まちづくり公社と観光協会は、共に情報共有を行っていく。
- (ウ) 富士山静岡空港のアクセスに関しては、県が交通検討会を立ち上げる予定であり、当町からは企画課が担当し参画する。

イ (3)イの要望・提案について

- (ア) 御利益スポットに関し、よくばりマップへの掲載と詳細マップ、冊子等を検討していく。
- (イ) 工場見学に関しては、体験型観光も視野に入れたものを検討していくが、産業団体等の協力が必要である。
- (ウ) 観光情報発信について、オアシス館のパネルは、まちづくり公社の管理であるが、観光協会と共に情報提供を行い充実させていく。
- (エ) 建設中の多目的広場は、農林水産省（水産庁）の補助を受けているため、海浜公園のという位置になると思われる。慎重に検討していく。

(5) 所管事務調査の結論

町内の隠れた観光資源として「花の会による花壇巡り」「御利益スポット巡り」「4自治会地域のお祭り」等を取り上げた。これらを町民及び町外に広く周知していくことで、観光資源が乏しいとされる当町に新たな賑わいの創出が図られると考える。

しかし、公共交通機関が乏しいため課題も多い。また、御利益スポットは

個人所有のため観光スポットとするためには個人の理解と協力が不可欠である。

交流人口増大を図るためには、富士山静岡空港への交通アクセスに課題がある。空港から町内への公共交通機関がないため、観光資源の開発により町内への流入需要を増やし公共交通機関の開設が望まれる。

主な観光スポットに焦点を当て、更に町内を回遊して町の魅力を知って頂くことにより吉田町全域が観光資源となる。そのためには、展望台小山城駐車場、県営吉田公園駐車場等を起点としたレンタサイクルが有効である。

所管事務調査を通じ、町内には知られていない観光資源となり得るモノが多数あることを認識した。

観光情報の発信拠点としてのオアシス館が機能することが必要と考える。

町民の皆さまが町の産物、産業、文化、歴史を知ることにより、観光資源を生かす取り組みが必要であり、「吉田町観光大使」となることが望まれる。

以上を後押しする施策、事業を展開することが必要であると結論する。